



河口部は浚渫工事が始まった。残った矢板は手つかず。



野球ネット撤去、堤防際で矢板打設工事説明板が立った。



潮止め堰全門最高位に引き上げられ正常制御状態である。



百間樋余水吐け付近。川の中に川が出来ていた。

日本の北と南では、豪雨・洪水に悩まされたが、武庫川流域では降雨量も少なく洪水と呼べるような水害は発生しなかった、逆に渇水を心配したほどで無事に出水期を終え、11月から武庫川の改修工事が始まる。工事のお知らせが河原の掲示版に掲示され、看板設置中の作業員に声をかけたら「ご迷惑お掛けして申しわけありません」と応える態度に恐縮、こんな小さな会話から信頼関係が結ばれ良い川づくりにつながって欲しい。

潮止め堰左岸側一門が少し下げて運用されていた時期があり、何らかの障害が疑われていたが、全門同じ高さまで上がっており、正常に運用されている事が分かる。6堰～7堰間、仁川合流点、百間樋付近で目測1m程度の土砂堆積があり樹木も大きく育ち流能力低下が心配される。早い土砂堆積が武庫川の特徴で、百間樋余水吐け付近では川の中に川が出来るほど土砂堆積が進んでいる。河口部で、浚渫工事が毎年行われているが、矢板抜き残し部では砂州が出来はじめている。



後川橋？から上流側を望む。



籠坊温泉上流側(○名川溪谷○立自然公園内の古い看板あり)



ガードレールのある方向が下流で兵庫県が管理する



大阪府側へ少し進むと女郎ヶ淵の伝説が残る。



天王で深山からの支流と天王峠からの支流が合流。



深山からの支流を遡ると羽束川源頭の一つに辿り着く

羽束川を後川から源頭まで辿った。まず釣り場や少し鄙びた籠坊温泉がある他、民家もなく狭い谷間の清流が天王まで続く、弥十郎岳への登山口もありハイカーにも親しまれ、流木・ゴミも無い自然豊かな渓谷が天王まで続いている。

天王は能勢街道の一番高い峠の上に開けた平地に六十戸が農業を営んでいる。国道を行き交う車が通過するだけ、小学校も統合される寒村、下水処理場が出来、全戸水洗化され、汚水もゴミも流入しない清流が維持されている。地元の方は後川から能勢までが生活圈、寒くて辺鄙なチベットだと言う。羽束川最初の水で町から来た人が呑む清水を教えてくれた。

高皇産霊神社記に「当天王村の田地作柄は、古文書の中に「極山中極寒にして北さがりの土地柄」とあり、さらに日照、冷害、猪鹿の害を代官に訴え続けた。文政四年(一八二一)八月の大豪雨により川欠など大被害を受けた」事が載っている。獣害は理解出来ても水害はピント来ないが、少子化と獣害は昔と変わり無いように見える。